

両生類

市内では両生類はカエル類が8種、サンショウウオ類が1種を確認した。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	両生類	アオガエル科	カジカガエル
2			シュレーケルアオガエル
3		アカガエル科	ウシガエル
4			トウキョウダルマガエル
5			ニホンアカガエル
6			ヌマガエル
7		アマガエル科	ニホンアマガエル
8		サンショウウオ科	トウキョウ サンショウウオ
9		ヒキガエル科	ヒキガエル

ヒキガエル科 アズマヒキガエル

幼生は黒いオタマジャクシ、池にうようよと湧いて泳いでいたことや、庭でのそのそと動いて、踏みそうになってびっくりした経験はちょっと年配の人はあるだろう。山の池でゲコゲコ・・・とカエル合戦を目撃したこともあるだろう。鏡のなかで脂汗を出して万能薬になったという口上、これはさらに昔のはなしだけれど。こんな逸話の絶えない生物がヒキガエル（和名はアズマヒキガエル、別名はガマガエル）である。ところがこんな何処にも居た人気者が、もうまったく見られない。この調査では2005年市民の森で1匹目撃しただけで、他の場所での記録はない。もう、市内では絶滅したかもしれない。

黒いオタマジャクシが妙に懐かしいのだが、何処かにいないのだろうか？



アズマヒキガエル



ヒキガエル幼生



トウキョウダルマガエル

アカガエル科 トウキョウダルマガエル

トノサマガエルと称されていたが、市内に分布するのはトウキョウダルマガエルである。水田などの湿地に生息するが、数十年前は市内全域で見られていたが、指に吸盤は無く、コンクリートで垂直になった水路では壁を登ることができず、下流に流され失われてしまう。現在での生息地は限られ、個体数も少数になっている。



ヌマガエル

アカガエル科 ヌマガエル

最近になり関東地方へ分布を拡大している。関西系の種で、10年以上前から荒川やその北部では生息確認があったが、2015年には滑川町、2016年には市内の滑川町に隣接している地域で確認した。身体には小さいいぼがあり、薄いクリーム色の体中線のある個体もいる。本庄市などでは水田で見られる種は本種だけになり、個体数も比較的多い。市内でも水田に分布を拡大すると考えられる。畑地でも見られ、乾燥に強いようだ。



ニホンアマガエル

アマガエル科 ニホンアマガエル

雨の降りそうな時になると、ケツケツケと盛んに鳴き出すのが本種で、水田で見られるオタマジャクシの大半も本種である。指には吸盤があり、垂直のコンクリートの障害物も登れ、水路のコンクリート化でも影響を受けずに生息数を維持している。庭の樹木にも登り葉陰に隠れている個体も見かける。植物の上にいるときには緑色、土

の上では緑に褐色が混じった色など、周りの環境色に合わせた多様な体色になる。

アカガエル科 ニホンアカガエル

褐色の赤みがある種で、少しスマートな体型をしている。以前には普通種であり、個体数は多くないが、ときどき見られる種である。しかし最近では個体数が減少、市内では上唐子の都幾川で2017年3月初旬に卵塊を3個確認したが、稀に見られるような種になっている。近隣の山に近い場所にはヤマアカガエルがいるが、市内では見られていない。



ニホンアカガエル

アカガエル科 カジカガエル

4月になると唐子から高坂までの都幾川で鳴き声が聞こえる。近寄ると鳴き止み、姿を見るのは難しい。体長5cmくらいの小さいカエルで河原の石に似た体色をしていて、すぐに水に潜ってしまう。清流に生息する種で、市内では市野川や滑川には分布しない。都幾川が清流である証であるが、個体数は減り気味に感じる。この種がいつまでも存続してくれることを願っている。



カジカガエル

アカガエル科 ウシガエル

沼や池に棲む大型の種で、ボーボーと大きな声で鳴くのはご存知であるだろう。外来種で1918年にアメリカから持ち込まれた。オタマジャクシも大型で体長10cmもある個体もいる。



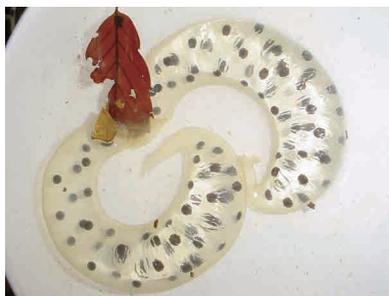
ウシガエル



シュレーケルアオガエル

アオガエル科 シュレーケルアオガエル

谷津などの水田に春先にケッケッケ・・・と鳴いているが、近寄ると声を潜め、姿を見ることは難しい。アマガエルと同じような薄緑色の体色をしていて、水田に水が張られると、産卵を行い、泡の塊になった卵塊を見ることができる。しかし、市内での個体数は減少していて、多くは見られない。



トウキョウサンショウウオ卵

サンショウウオ科 トウキョウサンショウウオ

成体は 15cm くらいだが、ほとんど見ることはない。よく出会うのは林の中の小さな水溜りに産まれた、三日月型で対になった卵囊^{らんのお}だけ。市民の森では 2005 年と 2013 年にも確認できている。絶滅危惧になって久しいが、それでも市内で見つけることができた。しかし、最近は何処を探しても、見つからない。本当に市内では絶滅してしまったかもしれない。本種は外来種であるアライグマが捕食すると聞く、またイノシシも食べていると聞く。この雑食性の中型から大型の哺乳類は 2000 年を過ぎた頃から生息数が急激に増加している。このような大型の哺乳類の出現により、浅い水辺に生息していた小さな生物が、深刻な絶滅危機を迎えている。



トウキョウサンショウウオ

(参考)

アカガエル科 ヤマアカガエル

山地に分布するアカガエルの仲間で、市内では見たことが無い。都幾川の上流部の堰堤内の溜り水の中で、多数の個体が集まり、産卵をしていたのを見たことがあるが、鳴き声が賑やかで、何事?と思った記憶がある。



ヤマアカガエル

アカガエル科 ツチガエル

以前には都幾川などに分布していたが、今では自然環境の良好な山地に近い沢などでは見られるものの、現在は市内では見られない。この種にヌマガエルは良く似ているので注意が必要である。



ツチガエル